

# たんぽぽ ライフ

50歳からの介護と  
シニアライフ研究

vol.9

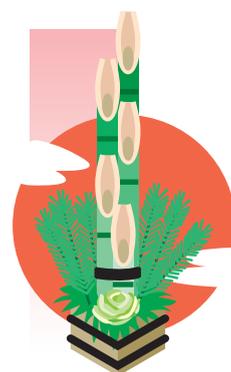
2014年1月

## たんぽぽライフ研究所

〒989-2421  
岩沼市下野郷字北谷地174番2  
tel.0223-24-6517  
fax.0223-24-6577  
<http://tannpopo.info/>

## 新春座談会

～地域福祉とデイサービスの存在感～



### デイサービスたんぽぽ、絆、たんぽぽ中央が目指す場所

2014年の幕が開け、新しい1年のスタートを迎えることができました。

今年は、ソチオリンピックやサッカーのワールドカップも開催され、社会は忙しくも賑やかな1年になりそうです。そんな年の新春に、地域に根ざしたデイサービスを運営してきた、たんぽぽ・絆・たんぽぽ中央の各管理者に、今年にかける想いを話す新春座談会を開催。各々の施設が目指すデイサービスへの想い、取り組みへの抱負を語っていただきました。

座談会出席者／たんぽぽ 所長 櫻井 容子・絆 所長 古山 真理子・たんぽぽ中央 所長 高子ひとみ  
司会進行／尚綱学院大学生生活環境学科 教授 阿留多伎 真人

#### 阿留多伎教授 (以下敬称省略)：

明けましておめでとうございます。本日は、2014年の新しい年を迎えまして岩沼の地域で活躍されているデイサービスたんぽぽ、絆、たんぽぽ中央の各管理者の方々にお集まりいただきまして、昨年を振り返り、新年への豊や地域への想いをお話しいただければと思っております。よろしくをお願いします。

まずは、各所長の皆様から昨年を振り返ってみて一言をお願いします。

#### 櫻井容子所長(以下櫻井)：

デイサービスたんぽぽの櫻井です。デイサービスたんぽぽは、岩沼市の東部、矢野目地区で運営している通常規模のデイサービスです。

昨年は地域の皆様からのご支援もあり、順調に利用者さんが増えました。スタッフもその対応に大変ななっています。

たんぽぽの利用者さんは元気な方が多く、その分要望も多様で、それらにお応えしていくのに今まで

のやり方では足りない事も出てきました。その状況も踏まえて、1人1人ニーズに合ったケアを提供していく事が責務と考えています。

#### 古山真理子所長(以下古山)：

デイサービス絆の古山です。絆は、平成25年5月に小規模デイ



▲阿留多伎教授



サービスとしてスタートしました。たんぽぽと同じ矢野目地区で運営しています。当初から、大勢の中では利用が困難な方々に手厚い介護を提供したいという思いでやってきました。10名定員で始めたのですが、おかげさまで利用していただける方も増え、今は12名定員でやっています。認知症の方が多く、「いっしょに、ゆっくり、たのしく」をモットーに毎日過ごしてきました。

#### 高子ひとみ所長(以下高子):

たんぽぽ中央は、平成25年6月に岩沼の中心市街地に、商店街活性化の一助になりたいという想いを込めてオープンしました。同じ岩沼でも中心市街地での通所介護の運営は初めてで、利用者さんの暮らし方なども矢野目地区とは違っており、戸惑うことが多くありました。それでも地域のの方々やケアマネジャーの皆さんに支えられた半年だと思えます。ゼロからのスタートでまだ半年ですから、これからもっとも地域のみなさんに利用していただける施設にしていかななくてはなりませんね。

**阿留多伎:**今の施設運営から見えて



▲櫻井容子所長

きた課題や、そこから取り組んでいくテーマはどのように考えているのでしょうか。  
**櫻井:**利用者さんの中で(東日本大震災の)被災者の方々は1/3ぐらい。自宅を再建された方もだいぶ出てきましたが、震災を契機に家族としての形態は変わってきたように思います。玉浦地区の人口は減っていくし、高齢者も増えていこうと思います。農業を営む方も減少し、中心市街地と同じように、一人暮らしの高齢者世帯が増えていきます。それにもまして、たんぽぽに来ていただく利用者さん一人一人の想いを大切に、笑顔で過ごしていただく環境を提供す

ることは基本だと思っています。

**古山:**絆は、介護度は3つの施設の中では一番高いですね。利用者さんの体調変化は大きいので、一人一人に気を配って介護をしていかなければいけません。その基本的な部分は大切にし、その上で利用者さんの家族ともコミュニケーションをしっかりと取って信頼関係を築くことが重要だと感じています。

**阿留多伎:**それは、利用者さんや家族の方々の安心感につながりますね。たんぽぽ中央さんは、いかがでしょうか。

**高子:**今、一人暮らしの方や老夫婦世帯の方も来所いただいております。小規模ということもありますので、昼食は利用者さん一人一人に気を配って「食べたくない」と言われたものは別なものに替えるなど、おいしく食べていただける食事



▲高子ひとみ所長

に気を配っております。ケアについても、より柔軟な対応を心がけないといけないなあと感じています。利用者さんには、医療的な配慮が必要な方もいらっしゃいますので、一人一人に丁寧に寄り添うということは最も重要だと考えています。

**阿留多伎:**福祉・介護の施設に対して客観的な立場から評価する仕組みが宮城県第三者評価基準としてあります。デイサービスとして審査を受ける義務はありませんが、利用される方からも信頼や安心を受けるには大切な取り組みだと思えますが、そのような仕組みを利用してサービスの質を高めていく取り組みに挑戦していますよね。

**櫻井:**はい、宮城県福祉サービス第三者評価を受けながら介護サービスの質を高めていきます。



時代とともにいろいろな流れや感覚はかわっていくものです。変えていけないものは理念だと思います。社会をしっかりと見極めて取り組んでいきたいと思えます。現場で必要な対応力については利用者さんの目線で取り組まなければいけませんからそのサービスの品質について、基準になるような解釈をしっかりと学んで自分たちのサービスにつなげていけるように取り組んでいきたいと思えます。

**阿留多伎:**評価基準に載らないものでも、大切にしていくことはある。

**櫻井:**基準だけではとどまらないことを、利用者目線で行動できる柔軟性は必要だと思います。

ただ、たんぽぽとしての基準をスタッフ全員が理解して行動できるような基準づくりは必要ですね。一人一人のサービス品質の向上が、たんぽぽとして当たり前に行動できるようなものにしていきたいですね。

**阿留多伎:**人の幸福度の尺度は難しいものですが、経済を超える基準があることは重要です。利用者さんにとって幸せである価値観を表現できるような基準作りができるといいですね。

最後に、今年の抱負をお願いします。

**櫻井:**小さなことから一つ一つ継続してやり遂げること。そして、人が財産ですから、“人財育成”はスタッフのみなさんと利用者さんやその家族のみなさんと共に、しっかりと育てたい施設にしたいですね。

地域のニーズを的確に捉え、皆様から愛されるように、宮城県第三者

評価基準を念頭に置いたケアの提供を行っていきたいと思います。

**古山:** デイサービス絆は少ないスタッフで経験を積んできたので、結束は強いと思います。ただ、なれ合いになることで気づきが遅れることもあるので、一人一人がステップアップできるような環境を作り、利用者さんにより高い品質のサービスを提供できるようにしていきたいですね。



▲古山真理子所長

利用者の状態も様々ですので、柔軟に対応しながらそれらを状況に

応じて組み合わせられるようにプログラム化できることが必要だと感じています。

**高子:** 開設して半年が経ちましたが、今は「1つ1つの階段を上っている途中」という感覚です。

1段昇るごとに、たくさんの出会いと教えられる事ばかりです。感謝の想いを形にと、「たんぽぽ中央」の施設スペースを週末は地域の方々に開放して、地域の活気と共に歩いていけるデイサービスを作り上げていきたい、と思っています。

**阿留多伎:** たんぽぽのノウハウを伝えられる福祉教本や介護学校のようなプログラムが作れると、地域にも役立つものになりそうですね。

今年のたんぽぽの活動に、ますます期待していますし、私も応援します。

本日は有り難うございました。



## 各施設の特長と理念・基本方針

### デイサービス たんぽぽ



▲たんぽぽホームページトップ

岩沼 デイサービスたんぽぽ [検索](#)

岩沼市矢野目地区を中心に多くの皆さまに利用いただいている施設。毎月様々な企画で利用者様と楽しく元気に過ごしている。週末の金曜、土曜、日曜はお泊まりあり。



▲常に活気溢れる施設内

### デイサービス 絆



▲絆ホームページトップ

岩沼 デイサービス絆 [検索](#)

たんぽぽと同じ、矢野目地区で運営する小規模デイサービス。介護度の高い方も多いが、スタッフの創意工夫でゆったりと過ごせる空間作りをしている。



▲料理パーティーの様子

### デイサービス たんぽぽ中央



▲たんぽぽ中央ホームページトップ

岩沼 たんぽぽ中央 [検索](#)

岩沼市の中心商店街に開所したデイサービス。地域の特性上、一人暮らしの利用者さんもいることから、一人一人に気を配った介護を心がける。



▲運動会イベントの様子

## 理念

～わたしたちがめざすもの～

- 一. 私たちは、笑顔と元気で一人ひとりの人生に共歓する「やすらぎの場」を創ります。
- 一. 私たちは、心豊かな介護をとおり、「家族の絆」を深め合う地域福祉に貢献します。
- 一. 私たちは、純情な心をもち愛深き「喜働の仲間」としてあゆみ続けます。

## 基本方針

### 1. 利用者様の立場に立った介護を提供します。

一人ひとり生きてきた人生に翻いながら、今の「時」を大切に温かな「心の介護」を提供します。心と身体の障害を少しでも克服できるように、温かな目と技で健康管理と予防介護を行います。

### 2. 心のふれ合いを大切にし、地域交流を積極的に行い、利用者様の輪を広げます。

地域との交流を深め、他人が他人を助け合う、ふれ合いある施設となり、地域と利用者・家族との絆を深めます。

### 3. 喜働の職場で一人ひとりの夢実現を目指します。

自分自身の行動に自信が持てる人。誰にでも親切な人。いつでも笑顔を絶やさない人。人と比較するのではなく「今日の私は、昨日の私より成長している」と自信を持って言える人。私たちは、職場の中で伴に人間の成長を図り、「夢」の実現をして行きます。



## “デイサービスたんぽぽ”の取り組みを支援して

一般社団法人日本医療接遇協会 迫中 都

現在デイサービスたんぽぽ、絆、たんぽぽ中央様で取り組んでいる福祉サービス第三者評価は、事業所の質の向上を図るため客観的視点で評価し、公表することが目的です。介護事業所として利用者さんを受け入れるための基本的なことをクリアし、優良な環境提供ができていることを社会的に公平な立場の視線で評価をいただきますから、提供されるサービス品質として安心を提供します。これは地域連携においても信頼を得られることとなります。

この評価は、外部に対するメリットだけでなく、事業所内にも大きなメリットが生まれます。事業所自体

のサービス提供に改善点はないか？改善に向けた取り組みがなされているか？維持継続のための体制はどのようになっているのか？振り返りのきっかけにもなると考えます。

また現在、この取り組みと並行して、マニュアルの整備、人事評価制度の導入、教育体制の確立、内外部研修、事業所管理などワーキンググループごとに実践しておりますが、県内の福祉関係事業所でこれだけの大規模な取り組みをされているところは本当に少ないのが現状です。

職員の方々も、日常業務の忙しい中の活動で大変かと思いますが、「スキルアップするために自分の振り返りの時間をいただいている」と考え、ご理解とご協力をいただければと思

います。一人ひとりの成果は必ず見ていてくれる人がいます。その力は束となって事業所の評価に繋がり、自分にも必ず返ってきます。

皆が心一つにして取り組むことが、どの目線からも信頼を勝ち得る大きな糧になります。まだまだ過程の状態ですが、地域の皆様、関係者の方々、そしてご利用者の方々のお声も大切にしながら、進めていきたいと思っております。

「ここで働けて本当によかった」「たんぽぽに来る日がいつも待ち遠しい」「たんぽぽは他と違うね」と言われる企業をめざし、単なる評価ではなく、当たり前に行っていることを見ていただくという観点で取り組んでまいりたいと思います。

### ～新春のご挨拶～

#### 「自分たちの未来を創る」一步を踏み出したい たんぽぽライフ研究所 所長 櫻井 容子

明けましておめでとうございます。昨年中は、地域の方々を始め多くの皆さまにご支援を賜りました事、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。今年も変わらぬご愛顧の程、新年にあたりよろしく願い申し上げます。

さて、早いもので震災から3年が経ちました。地域は今、大きく変化しようとしています。私の生まれ育った故郷は津波がすべてを持ち去り、今は原っぱになっています。

私は昭和30年の生まれです。その頃の事を良く思い出します。米作農家の田舎生まれですので、都会の同世代の方々とはだいぶかけ離れた思い出です。

自給自足でしたので、米が生み出すもの総てが生活の糧でした。特にワラは「むしろ」や縄になり、五右衛門風呂の焚き付けになりました。ワラ布団に寝た記憶もあります。

母が暗く寒い納屋でむしろ織りをしている姿が想いされます。

今は無い故郷の面影…心の中にいつまでも残る原風景です。

あの頃の老人介護は家族が多かったけれども女達の務めでした。紙オムツなどはなく古い浴衣着をオロした布オムツでした。納戸という家の中でも暗い北部屋のワラ布団で寝ていた方も多くいました。ワラ布団なら失禁で汚れた布団も安易に再生できたからです。脳卒中で倒れた方をこの辺では「あの人、たがったんだや」と言っていました。今思えば差別用語のように聞こえます。

平成12年に介護保険法が制定されてから、介護は他人の手に委ねられる事が多くなりました。何かを満たされ、何かが失われた気がします。

現在、65歳以上の高齢者は4人に一人となりました。日本は2010年の統計で健康寿命が女性73.62

才、男性70.42才で、これも世界でトップクラスです(2012年厚生労働省発表)。65歳から年金が受給されることもあり、職を持たない方が多くいます。

健康寿命から言えば女性は8年、男性は身体的に5年間は働くことが可能です。また、自分の老後を見案する時間を持つことが可能です。

今年の「たんぽぽライフ研究所」は地域の介護を考える一助になるために、昔から過ごした地域の仲間達と「自分たちの未来を創る」一步を踏み出したいと考えています。

誰しもが感じるであろう、将来の自分の老いについて「想いを形」に出来るような地域コミュニティ創りを私たちは提案して参ります。

皆さまのご指導、ご助言を賜われれば幸いです。

今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。